

平成29 学校評価 評価書

日之影町立高巣野小学校

【 4：期待以上 3：期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する 】

評価項目	達成目標と方策	自己評価				学校の自己評価の所見	第三者評価
		児童	保護者	教師	全体		
確かな学力の定着	実質45分の授業を充実させ、「分かる授業」「鍛える授業」「感動のある授業」を展開し、確かな学力を身に付けた児童を育成する。	3.2	3.1	3.0	4	確かな学力を身に付けた児童の育成を目指した授業の工夫改善については、高い評価を得ている。現在校内で行っている実践的研究をさらに定着させ、教師自身が児童一人一人の理解度を把握しながら、より確かな学習内容の定着に向けて「分かる」「できる」授業を心がけていきたい。	4
	指導方法の改善に努め、分かる授業を展開し、諸学力テストで全学年、ほぼ全領域で平均（全国・県・町）を上回るようにする。			2.8	3	単元毎に行う評価テストでは全国平均を上回っている。全国学力調査及び県の学力テストの結果でも、主として知識の問題に対しては、全国平均や県平均を上回っている。しかし、活用する問題に対しては、全国平均、県の平均を下回り、今後、類似問題や過去問題を朝の活動や授業、家庭学習で取り組ませるとともに、最後までやり終えることのできる力を育成したい。	3
	個に応じた指導方法の工夫改善を図ることによって、資料等を工夫して分かりやすく伝えたり、自分の思いや考えを伝え合うことができるようにしたりする。	3.3	2.9	2.8	3	児童は、ICT機器を活用したり、集会活動などにおいて自分の考えを積極的に伝える力は伸びてきている。しかし、自分の思いや考えを積極的に発言するには抵抗を感じる児童も多い。聞く態度の育成等の基本的な学習訓練を発達段階に応じて徹底させることにより、力を付けさせていきたい。	3
	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標冊数をもたせ、80%以上の児童が目標を達成できるようにする。	3.0	2.4	2.4	3	たくさんの本や新しい書架を購入したり、図書室だけではなく、スペース等にも本を並べたりしながら児童が読書に親しみやすい環境づくりが心がけている。来年度は、読書の楽しさを味わえる活動を工夫することで、児童の読書への興味・関心を高めていきたい。また、学校だけではなく家庭と連携して家庭読書の啓発へと広げていく取組を工夫していきたい。	3
豊かな心の育成	思いやりのある言葉かけや行動が日常的にできるようにする。	3.3	3.1	2.9	3	「誰とでも仲よく遊ぶ」、「思いやりのある行動をとる」の項目は児童、保護者、教員いずれも80%を超えており、普段から思いやりのある行動はできている。しかし、「「いい言葉」については児童に比べ保護者や教員は低い評価となっている。これらは、日常の返事やお願い事などが原因だと思われる。今後も、児童の思いやりのある言葉かけや行動を集会の場等で積極的に取り上げ、ほめて意識させるとともに普段の言葉づかいについても意識できるようにしていきたい。	3
	学校での朝のボランティア活動や地域におけるボランティア活動や行事等に85%以上の児童が進んで参加できるようにする。	3.2	3.3	2.6	3	児童、保護者に比べ教員の評価が低い結果となっている。児童は地域のボランティア活動や伝統行事にはよく参加している。学校においても朝のボランティア活動や清掃活動に積極的に取り組めるようになってきており今後さらに積極的なボランティア活動を進めていきたい。	3
	あいさつや礼儀の指導を徹底し、家庭や地域でのあいさつやお礼など85%以上の児童が達成できるようにする。	3.7	3.3	3.2	4	児童、保護者、教員ともに高い評価を得ている。地域の人たちからも児童のあいさつについてお褒めの言葉をいただいている。来年度も学校だけではなく地域においても進んで大きな声であいさつができるように継続した指導を実施していきたい。	4
	学校施設の整備を図り教育環境を充実させる。		3.4	3.2	3	学校の施設設備、遊具等については毎月行っている安全点検の結果をもとに、改善を行っている。また、児童にも校内の危険箇所を調査する活動に取り組ませることで教員には気付かない細かな箇所についても確認するとともに、児童の安全意識を高めることもできた。今後も保護者、地域、町と連携しながら教育環境の充実、安全確保を図っていきたい。	3
たくましい体の育成	体育指導法の充実を図り、「県体力テスト目標設定システム」を活用した個人目標を設定し、70%以上の児童がその目標を達成できるようにする。	3.7	3.1	3.2	3	5月に実施した新体力テストの結果により、児童は自分の課題を確認し、「らんらんタイム」で課題克服のための練習に熱心に取り組むことができた。来年度も「らんらんタイム」等への呼びかけ、体力テスト前の目標の設定、確認を継続的に行っていきたい。	3
	基本的な生活習慣の定着に向けての取組や立腰指導を徹底し、85%以上の児童が達成できるようにする。	3.3	3.2	3.0	3	「早寝、早起き、朝ごはん」については、児童、保護者、教職員いずれも肯定的回答が約80%だったが、立腰について肯定的回答が低かった。集会での指導及び日常指導を行い、見届けと賞賛をしていきたい。また、立腰については姿勢棒の活用、すこやかチェック・アウトメディアの取組を家庭と連携して継続していきたい。	3
	「弁当の日」や日常の給食指導を充実させ、食に対する意識を向上させる。	3.3	2.9	2.8	3	食の指導については、学級担任だけではなく養護教諭や宮水小学校の栄養教諭と連携して行っている。弁当の日については、各学年の発達段階に応じたコースを設定することで無理なく行うことができています。来年度も、家庭との連携を図りながら継続して取組を継続していきたい。	3
	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と外遊びをしている」と答える児童が90%以上になるようにする。	3.4	3.1	3.2	3	多くの児童が、昼休みや放課後に外で遊ぶことを好み、外でボール遊びをしたり、プランコやジャングルジム等の遊具遊びをしているが、高学年になるにつれ、外遊びを敬遠する傾向にある。児童が楽しめる外遊びの提案を行い、運動好きな児童の育成に努めていきたい。	3